

Henry James によるおとぎ話の書き換え

Watch and Ward におけるマリッジ・プロット

齊藤 園子

はじめに

Watch and Ward (1878)は、中心人物の結婚が成立する Henry James の数少ない作品のひとつである。1871年の雑誌発表を基準にすれば James 初の長編小説にあたり、後に続く James 作品に登場する要素が凝縮されている。その中で「結婚の成立」は、後の James 作品の多くにおいて排除される要素である。結婚が成立する中・長編小説には他に、*The Europeans* (1878)と *Confidence* (1879)がある。後期の *The Golden Bowl* (1904)においても結婚が成り立つが、この作品は正確には、結婚の修復と維持をめぐる展開する。結婚が成立する 1870年代の三作品はいずれも、晩年の「ニューヨーク版」作品選集に入っていない点でも共通している。本研究は *Watch and Ward* におけるマリッジ・プロットに着目し、James 作品における「結婚の成立」をめぐる問題を考察する。

1. ヴィクトリア時代のおとぎ話

ヴィクトリア時代には数多くのおとぎ話が生み出された。Jack Zipes は、背景に産業革命の有害な影響や不正義があり、おとぎ話の執筆は、中産階級の若い世代に働きかけ、社会変革を促し得る行為であったと指摘する (Introduction xvi)。また 1860 年から世紀末にかけてのおとぎ話は、慣例主義かユートピア的理想主義のいずれかに向かったと指摘する。前者は社会体制との折り合いを促し、後者については、おとぎ話の執筆が、現実世界の状況を吟味し、よりよい社会を志向する視座を得るための「別の世界」(xxix)を創り出す方法として機能したという。また Laurence Talairach-Vielmas は、Dickens や Brontë 姉妹の作品を含めて当時のほぼすべての作品がおとぎ話を内包しているとし、ヴィクトリア時代のセンセーション小説の多くが、結婚によって社会的な上昇を図る女性に焦点をあてており、おとぎ話のプロットが繰り返されていると指摘する (2)。Zipes によれば「おとぎ話の真価」は、時代や場所が異なっても、おとぎ話特有の要素を利用することで、作家が所与の社会における権力構造の実態にどの程度接近できるかにある (“Cross” 845)。

2. James のひねりが加わったおとぎ話——*The Turn of the Screw*

ヴィクトリア時代に生きるアメリカ人 James もおとぎ話の強い影響下にあり、自身でもその影響を語っている。ニューヨーク版の序文では、*The Turn of the Screw* (1898)を「純粋なおとぎ話」と位置づけ、Peter Quint や Miss Jessel は「幽霊」ではなく、おとぎ話の小人や妖精のような存在だと述べる (xx)。この序文を踏まえて Christine Butterworth-McDermott は、幽霊が雇用主を欲望する家庭教師の幻覚である可能性を指摘した Edmund Wilson の見方を評価しつつも、家庭教師にあるのは性的欲望というより結婚への欲望であると指摘する (44)。不遇な環境を乗り越えて幸せな結婚を獲得するというプロットが流行した 19 世紀にあつて、家庭教師のように乏しい資力で自活する女性にとっては、苦境を打開する唯一の方法が結婚だと認識されたという。

3. *Watch and Ward* におけるおとぎ話

指摘されることはほとんどないが、*Watch and Ward* の底流にはおとぎ話がある。Roger Lawrence と Nora Lambert の出会いから結婚までを追う本作品は、孤児が裕福な男性と結婚するシンデレラ・ストーリーである。Adeline R. Tintner も本作品におけるおとぎ話の役割に着目しているが、Tintner の関心は主に *The Arabian Nights* と東洋的な要素に向けられている (83)。しかし *The Arabian Nights* 以上に本作品の心髄に関わるのは、“Cinderella”に見られるようなマリッジ・プロットである。拙訳書において述べているが、Nora の成長の有様は手にしている本からも伺える。子ども時代の愛読書 *The Child's Own Book* の“The Discreet Princess”の部分に指を挟んで登場した Nora は、初対面の Hubert を Prince Charming に例える (36)。この童話集は様々な形で版を重ねて出版されたため、本報告者が確認できた範囲にすぎないが、“The Discreet Princess”が掲載されている同時代の版において、“The Discreet Princess”の直前の作品は“Cinderella, or the Little Glass Slipper”である。

作品の登場人物にはおとぎ話のストック・キャラクターの役割が与えられている。Nora は Cinderella あるいは Finetta のようなマリッジ・プロットの成功者である。Hubert には Rich-Craft のような打算的な悪役王子の性格も混在している。富裕な Roger も Prince Charming である。第一章で Nora は「魅惑され魔法にかけられたかのように」Roger を見つめる (23)。George Fenton にも悪役王子の要素が付与されている。さらに Keith 夫人

は継母と妖精の役割を果たしている。女性主人公の若さと美を羨む中年女性キャラクターの要素を持ちつつも、Noraに有益なお膳立てを施す「おとぎ話の妖精 (a fairy godmother)」(115)でもあるのだ。

4. James によるおとぎ話の書き換え

Watch and Ward は、ヒロインが王子と結婚するという従来のおとぎ話のプロットをたどる。しかし二人の結婚は“happily ever after”の形で落ち着くことはない。大団円における Nora の言動は謎めいており、その様子に Roger は戸惑うのだが、読者も同様である。本作品は、James が独自のひねりを加えて書き換え、おとぎ話が描き出す結婚像に疑問を呈すると同時に、ヴィクトリア時代のアメリカの状況を踏まえた資本主義的なおとぎ話を提示しているように思われる。本作品のエンディングは実に、おとぎ話自体の大団円が、二者間の愛情の確認というより、地位や財産の獲得を意味することを思い起こさせる。おとぎ話を吟味する James の視線は、おとぎ話とさほど変わらないマリッジ・プロットを展開する大衆小説、さらには Elsie B. Michie が指摘するように、19 世紀の小説世界全般にも向けられていると考えられる。また、イギリスにおけるおとぎ話の流行と関心を共有していると思われる一方で、James のおとぎ話は、階級社会ではなく、資本主義社会における上昇を視野に入れている。例えば、Anne Thackeray Ritchie の“Cinderella”において、結婚がヒロインに階級秩序内での手堅い社会的上昇をもたらす時、アメリカの Roger の富は、祖先の遺産に基づくとはいえ、株取引や資本の移動によって維持されている。その王子との結婚が Nora にもたらすのは資本主義社会における流動的な位置であり、Roger との結婚を決意する Nora の態度は、その流動性に身を投じる緊張感を伴っている。さらにこの Nora の姿は、父が資本の力に屈し、自らは孤児となって引き取られ、結婚に際してまたも資本の力に屈しようとしている個人の姿であり、個人の生を支配する資本の力を前景化している。

5. James 作品における結婚の成立

James は *The American* のエンディングについて、Newman と Madame de Cintré の間には高い石壁が存在するのであって「二人が結婚したとしてどこに住むことができるのか」と問う (*Letters* 104)。*The Europeans* のエンディングも実は奇妙である。語り手は、結婚した Gertrude と Felix が「穏やかな幸せを得て遠くへと去り」、実家には二人の「陽気なこだま」が届く、と述べるにとどまる (173)。*Confidence* の場合は、ヨーロッパを舞台にアメリカ人が「幸せな結婚」を模索した結果、経済面を度外視した結婚が成立する。アメリカ的な資本主義社会を視野に入れる *Watch and Ward* を含めたこれら三作品は、従来のおとぎ話のように階級秩序を前提とすることができない。そして資本は人間の生を支配し得る一方で、安定した位置を保証しない。*Watch and Ward* は早い時点で作家自身から顧みられなくなったが、James は本作品を「冷たい」作品と評している (*Letters* 167)。本作品が、表面上は男女間のロマンスと結婚を描きながらも、実のところアメリカ的な資本主義の「冷たい」有様を暴く作品だからではないだろうか。また、Nora を取り巻く Roger、Hubert、Fenton のような男性陣や、Keith 夫人のような指南役が姿を変えて James 作品に繰り返し登場することを考えると、結婚の成立の有無に関わらず、James 作品には概して、おとぎ話の変奏としての側面があることを指摘できるように思われる。

引用文献

- Butterworth-McDermott, Christine. “James’s Fractured Fairy-Tale: How the Governess Gets Grimm.” *The Henry James Review*, vol. 28, no. 1, Winter 2007, pp. 43-56.
- James, Henry. *The Aspern Papers; The Turn of the Screw; The Liar; The Two Faces*. Scribner’s, 1936.
- . *Henry James Letters: 1875-1883*, edited by Leon Edel, vol. 2, Belknap P of Harvard UP, 1975.
- . *Watch and Ward*. Boston, Houghton, Osgood, 1878.
- Michie, Elsie B. *The Vulgar Question of Money*. Johns Hopkins UP, 2011.
- Ritchie, Ann Thackeray. *Five Old Friends*. Leipzig, Bernhard Tauchnitz, 1875. *HathiTrust Digital Library*, babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=hvd.32044010004208&view=lup&seq=11. Accessed 22 June 2020.
- Talairach-Vielmas, Laurence. *Moulding the Female Body in Victorian Fairy Tales and Sensation Novels*. Routledge, 2016.
- Tintner, Adeline R. *The Pop World of Henry James: From Fairy Tales to Science Fiction*. UMI Research P, 1989.
- Zipes, Jack David. “Cross-Cultural Connections and the Contamination of the Classical Fairy Tale.” *The Great Fairy Tale Tradition*, edited by Zipes, Norton, 2001, pp. 845-69.
- . Introduction. *Victorian Fairy Tales: The Revolt of the Fairies and Elves*, edited by Zipes, Routledge, Taylor & Francis Group, 1987, pp. xiii-xxix.
- ジェイムズ、ヘンリー『後見人と被後見人』齊藤園子訳、大阪教育図書、2019年。